

五小っ子

平成30年度 学校便り第11号 (8月21日)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文



いのち **学校教育目標**
『生命を大切にし、進んで学ぶ
心身ともにたくましい子どもを育成する』
○やさしいっぱい ○かっこいいっぱい ○たくましいっぱい
教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を
合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

平和集会

8月9日(木)は長崎原爆の日にあわせて
平和集会を行う全校登校日です。

1学期の間、各学年毎に平和学習・平和の歌の練習・平和
の誓い発表練習等々を重ねてきました。

祈りの日集会に続き全体発表を担当する4年生は前日まで
リハーサルを行いましたし、進行を担当する運営委員会も最
終確認のために、こちらも前日に集まってくれました。

平和の大切さを全校で再確認する大切な日だからです。
先生たちも全員で会場設営を行い『平和の鳩』『折り鶴』『平
和の鐘』など、平和への願いを込めました。

子どもたちが登校する児童玄関には、「平和集会の大切さ」
を伝えるメッセージが掲示され平和集会の全ての準備が整いました。

そして当日、厳粛な空気に包まれた体育館に全校児童が集合し4年生の発表が始
まりました。

— 4年生の発表、一部を紹介します —

.....

「原爆資料館で戦争の怖さと原爆の恐ろしさを知りました。」
「何も悪いことをしていないのに、関係の無い人を巻きこんで命を奪
ってしまうのです。」

「世界では、長崎に落とされた原爆よりも何倍も威力のある核兵器が
開発されています。」

「今も核実験を行っている国
だってあります。」

「ぼくたちは原爆が落とされ
た長崎に生まれました。」「こ
の学習を通して、あの日の出
来事を絶対に忘れてはいけな
いと思いました。」「そして伝
えていかなければなりません。
ん。」

「原爆の恐ろしさを」
「平和の大切さを」



「友達の良いところ
を見つけ、認め合う
クラスをつくりま
す。」

素晴らしい発表でした。
4年生の真剣な発表を
真剣な眼差しで聴く全
校児童の態度がとても
良かったと思います。

この後『青い空は』を

全校で斉唱し、平和の鐘の音に合わせて黙祷を捧げました。

～ 校長講話から抜粋 ～

今から73年前の今日、長崎に「ファットマン」という名前の原子爆弾が落とさ
れました。

午前11時2分、今年も間もなくその時がきます。

真夏の太陽が照りつける、とても暑い暑い日だったそうです。たった1発の原子
爆弾で、約7万4千人もの尊い命がうばわれ、今でも病気や後遺症に苦しむ多くの
人たちがいることを忘れてはなりません。

悲惨な原爆を体験した方々も年をとられ、被爆した方のお話を直接聞くことが
できるのは、みなさんが最後の世代だとも言われています。私たちは長崎の子ども
として、原子爆弾のない平和な世界をつくるように世界の人々に呼びかけていかな
ければなりません。

6月23日「沖縄慰霊の日」8月6日「広島原爆の日」今日、8月9日「長崎原
爆の日」そして8月15日の「終戦の日」には、特に平和について考え、二度と悲
惨な戦争を繰り返さない決意が必要などとても重要な日であることを覚えておくので
す。

たくさん大切な命を奪う戦争を、この世界からなくすためには、私たち一人ひ
とりの心から争いをなくし、友だちや家族に優しくすることが大切です。

いのち
○生命を大切にしない。 ○自分を大切にしない
○親を大切にしない。 ○まじめにしない。
○感謝の心を大切にしない。

そう、五小五つの教えです。そこから平和は始まると信じています。

残暑お見舞い申し上げます。

もうすぐ処暑だというのに連日の暑さで体調管理も大変な
毎日ですが、長かった夏休みもあと10日です。

今日は五小の子どもたち326名全員の安全も確認することが
でき、安心しました。どうぞ皆様ご自愛ください。



※学校HPからカラー版を見ることが出来ます。(5sho.netで検索)